

2015年「ガラス産業連合会新年会」報告

(一社) ニューガラスフォーラム事務局

Report on the New Year Party of the Glass Industry Conference



左から、板硝子協会／ニューガラスフォーラム、硝子繊維協会、電気硝子工業会、日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会の各会長

2015年1月22日（木）、この日はあいにくの雨模様でしたが、東京都千代田区の東京會館にて、恒例の「ガラス産業連合会（GIC）新年会」が開催されました。永きにわたって

東京會館でガラス産業連合会の新年会を開催してきましたが、今の東京會館は2月から建替工事に入るため、この会場で開催される新年会は今回が最後となります。

2000年3月のガラス産業連合会設立後、2002

年から開催しているこの新年会も今回で第14回目となり、今回も、経済産業省、学界、会員企業、関連団体、報道機関等、合計365名の参加を頂きました。連合会に加盟する板硝子協会、硝子繊維協会、一般社団法人日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会、電気硝子工業会、一般社団法人ニューガラスフォーラムの6団体で主催しており、今年は、板硝子協会の森谷茂明専務理事の司会により開催されました。



吉川恵治ガラス産業連合会会長
(日本板硝子株式会社社長)

始めに、吉川恵治ガラス産業連合会会長（日本板硝子株式会社社長）のご挨拶があり、そのご挨拶要旨は次の通りでした。

“今年度、ガラス産業連合会では、環境対応活動として「低炭素社会実行計画」のフォローアップ、「ガラス技術シンポジウム」を通じた産学交流活動、「放射性物質の次世代ガラス固化技術」に関する活動、「ガラスデータベース」の提供等の活動を行ってきました。本年も、加盟6団体共通の課題である「環境問題」、成長戦略としてのプロセス関連技術や新素材関連技術といった技術開発と、さらに消費者に親しんで頂くための広報活動に努めていきます。中でも、住環境が健康に及ぼす影響とその取り組みについて、日本のガラス業界が有する技術に基づき、ガラス産業連合会としても消費者へのアピール、あるいは、消費者の立場で考える取り組みが重要であると考えます。変わらぬご支援、ご協力をお願い致します。”



谷明人経済産業省製造産業局大臣官房審議官

次に、ご来賓代表として、谷明人経済産業省製造産業局大臣官房審議官からご祝辞があり、その要旨は次の通りでした。

“我々の生活あるところにガラスあり」という基本的な考え方にに基づき、ガラスは生活文化と関連し、過去・現在・未来を結びつける役割があります。ガラスは生活を豊かにする物質であるとの観点から、政府の主導するトップランナー制度、省エネ住宅ポイント制度の復活、安全で安心な家造りを目指すといった政策課題、ならびに経済対策で計上している省エネ設備補助金等、様々な政策を日本のガラス産業の発展に役立ててほしいと期待します。”

その後、石塚久継ガラス産業連合会副会長による乾杯のご発声により歓談となりました。

16時から始まったガラス産業連合会の新年会でしたが、歓談の時間は瞬く間に経過し、17時半頃に、牧島亮男ガラス産業連合会理事によるご挨拶で中締めとなりました。



石塚久継ガラス産業連合会副会長



牧島亮男ガラス産業連合会理事



会場風景